

土・人・水

第2回ため池の景観整備イベント開催

令和2年度の久保調整池に引き続き、令和3年10月18日に大町市大町三日町居谷里1〜3号で開催されました。本イベントは、ため池の存在価値や危険性を肌で感じるとともに、かつては人々の生活の礎であったため池の原風景を後世に引き継ぐことをコンセプトに、令和2年から当改良区で企画し、水利運営委員会、地域用水対策協議会と共同で開催しています。

早朝より地元関係者、市町村、県職員、ため池工事関係者を含む約60名が参加。作業には牛越徹大町市長もご参加いただき、遊歩道の整備、堤体の草刈り、流木の撤去作業などを中心に2時間程度汗を流しました。作業後は事務局が前日より仕込んだ豚肉、地元野菜をふんだんに使った特製豚汁が振舞われました。味も好評でしたが、何よりも参加したみなさんが自作農業の話やため池の思い出話を咲かせ自然と笑顔がこぼれる姿が印象的でした。食事後はきれいに整備されたため池でドローンの空撮による記念撮影を行い、最後に木崎漁協にご提供いただいた木崎マスを参加者にプレゼントし、



写真：閉会式の様子

閉会となりました。また、イベント会場にため池構造や、防災マップ、事前に調査した生息生物の展示パネルを設置しました。生き物を懐かしむ様子や、普段はわかりにくいため池の構造などを真剣に見入る姿が多々見られました。

これからも、ため池の通常管理とは別にため池の再生や後世への継承を念頭に、より多くの市民の方に知ってもらい、備えてもらうための様々な活動を行なっていきたくと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いします。

また、お忙しい中、当イベントの生息調査、ドローン撮影、パネル展示・作業などにご尽力いただいた市・県職員、(株)峯村組職員の皆様に感謝申し上げます。

長野県大町市大町3887番地
大町市土地改良区
水土里ネットおおまち
地域用水対策協議会
TEL 0261(22)5542
FAX 0261(23)0766
www.midorinet-omachi.jp

管内施設のゴミ問題

大町市では、平成12年4月から一般家庭などから排出される資源ごみの分別回収が行われてきました。そうした各自自治会の連携による分別回収や再利用などの取り組みによりごみの減量化が図られつつありますが、用水路へのポイ捨ては依然として減ることなく、あちこちの水門やため池などに堆積しています。

特に最近のニュースでは、海洋プラスチック問題がクローズアップされています。川から海に流れ出した大量のプラスチックが海を汚染し、2050年には海のプラスチックの量が魚の量を上回ると危惧されています。

私たちの生活にとって欠かせないプラスチックですが、日本では容器包装リサイクル法をはじめ、様々な取組が行われており、プラスチックの使用量を減らすために、レジ袋の有料化やチェーン店などのプラスチックストロウの使用削減などが推進され、マイバッグやマイボトルを持ち歩く人が増えてきてはいるものの、百円ショップに行けばレジ袋が容易に買える状況の中で果たして減量につながるのかは疑問に思えます。

しかし、地球の美しい自然環境や豊かな海を次世代につなげていくためには、プラスチックの減量化に併せ、ほかの誰かが解決してくれることを待つのではなく、私たち一人一人がポイ捨てはせず適正な処理を行い、もし外で

プラスチックゴミを見かけたら積極的に拾うこと心がけ実践していきましょう。そんな当たり前をもう一度見直したいですね。



写真：農業用施設で引き揚げたゴミ

西小お米作り体験

毎年恒例となっている大町西小学校5年生の米作り体験授業が今年も始まりました。4月14日に種蒔作業。慣れない手つきではありましたが、どの苗箱も大人顔負けの完成度で、それから約4週間、子供達が温度管理と水くれをおこない、しっかりとした苗に成長させてくれました。5月12日に代掻き作業。最初は裸足で田に入るのを躊躇する子供も大勢いましたが、作業に慣れてくると、田んぼを駆け回ったり、泳いだり、泥投げをしたりしながら普段の生活で味わうことのない解放感を楽しみながら作業している様子でした。5月16日に田植え作業。濃緑色に立派に育った苗をロープの印に合わせ

て、手作業で植えました。大人でも根気のいる作業ですが、弱音を吐かず、一生懸命に行っている姿に感激しました。これから9月の収穫まで子供達同様にかくましく成長して、秋には立派な穂が実ってほしいものです。



写真：代掻き中の子供たちの笑顔

地域用水について考える

管内の水田の半分近くが水稲の緑色に染まり、地域農業がひと段落を迎えた5月中旬、全国をにぎわすニュースが飛び込んでまいりました。愛知県明治用水頭首工の漏水事故のニュースです。明治用水頭首工は、かんがい地域8市4町に渡り、両岸合わせて毎秒42t以上の農業・工業用水を取水し、配水する施設で、まさにこの地域の用水の要といえる施設です。明治用水は、明治13年に開通、取水位置の変更があった後、昭和32年に農水省により今の位置に頭首工が建造されました。その後補強工事、改修工事等で整備しながら現在に至ります。

頭首工とは、堰により川を止めて水を溜め、取水する施設であり、今回の

事故はその堰底の下に穴があいたこと（パイピング）が事故の主な原因とされております。

「用水(路)」は、農業、工業、発電、飲用、その他に使用するために人工的につくられた水路のことであり、古い石積などもとの自然地形を利用してつくられた水路は疎水とも呼ばれており、大町地域でも形は変わっても大昔にライフラインとしてつくられた用水・疎水がたくさん残っております。また、大正時代から昭和初期に水道が整備されるまでは、飲料水や洗濯まで生活の至る所すべてを用水(路)でまかなわれてきました。明治の中頃までは日本の主要産業は稲作を中心とした農業で、水を取り合う「水争い」が全国各地で頻発しました。このため、国策として、水が豊かな川や湖から水が不足する地域に水を運ぶ用水(路)の開発が進み、ここ大町地域においても、昭和30年前後の開発事業により、現在の多岐にわたる水路網の大部分が築きあげられました。

現代社会においてわたしたちは何十分なくあたりまえのように水道水や用水(路)を使い生活しています。今回の明治用水頭首工の事故は、岡崎市や豊田市などで地域産業や人々の日常生活に大きな被害をもたらしました。農家でない人でも用水(路)に水が来ない事に不安を感じた人も多いと思われますし、改めてその大切さを実感したのではないかと思います。あたりまえのように流れている用水(路)は、現代社会の一般的な生活においても農業用

だけでなく希釈水、防火用水、融雪水のほか、レジャーなど多種多様な生活用途で使用されております。最近までは、用水(路)の管理は昔からの慣習により農家が担ってききましたが、耕作者数は減少する一方で、危機に陥っております。飲料水以外は関係ないとか用水(路)の清掃は農家がやるべきだという声をよく耳にします。しかし、地域用水は、農家に限らず地域の農家と住民が協力しながら地域の宝として守り育てていかなければなりません。先人たちの守り継いできた用水(路)に感謝しつつ、わたしたち一人一人が守り人として地域用水を大切にしていきたいものです。

猫鼻親水公園の植栽作業

平猫鼻にある越荒沢親水公園は、せせらぎ水路がながれており、自然豊かな場所に魅かれて毎年たくさんの方が訪れ、レジャーを楽しんでいるようです。この公園の維持管理は当改良区(協議会)で担っており、ふれあいイベントの他、維持管理作業を年に数回行っています。公園内の法面は人目につきやすく日当たりもよいのですが、雑草の繁茂が目立ちます。また傾斜地盤は維持管理作業も比較的困難なため、雑草が繁茂しがちです。そこで、何か良い策はないかと試行錯誤する中で防草緑化工法を知り、協議会の共同活動で施工することになりました。

令和3年7月8日、小雨が降る中、地域振興局後整備課他、5団体30名が

参加し、福井県の株白崎コーポレーションの指導のもと、法面部に約100㎡ほどの防草シートを設置、シートに植え込み穴を開け、シバザクラ(土地改良区理事提供)を約400株植え付けました。あいにくの雨にも見舞われ、大変な作業となりましたが、無事作業を終えることができました。

ピンク色に染まったきれいな花が法面を覆いつくし、たくさんの方々が心癒される日がくることを期待しながら、日々の管理に勤しんでまいります。



写真：R3の植栽作業の様子

新規採用職員のご紹介



令和4年6月1日より大町市土地改良区に採用となりました宮田健雄と申します。生まれも育ちも大町市です。組合員の皆様にご頼まれるよう、精一杯努力して参りますので、よろしくお願い致します。

社段丘下の開発を担った二つの用水 ―社新堰と田川堰―



閩田・曾根原・宮本の社南部地域は、伊勢神宮領仁科御厨として古くから開発され、中心集落の一つとして曾根原の「五十畑遺跡」が考えられています。高瀬川段丘の上部は、大峰山から流れ出る押沢・神明沢と小規模ないくつもの湧水を水源としていましたが、段丘下の開発は、当初は社新堰と田川堰によって進み、やがて江戸時代後期になると新切堰などの整備により高瀬川沿岸にまで及びました。今回は、この社新堰と田川堰について考えてみましょう。

押沢の自然堤防と社新堰

社新堰は、農具川と思沢の合流点から取水し、押沢・神明沢を横断して段丘沿いに閩田から池田町の中島までの90ha余を灌がする延長8km余の水路です。下流の池田町では、松本藩の郡奉行であった岡江惣右衛門の尽力により池田町川から分支し、寛永18(1641)年に完成したと伝わる岡堰と合流しています。

社新堰が灌がする曾根原・宮本の段丘下の耕地は、押沢によって形成された自然堤防によって高瀬川の被害から守られており、段丘上で使用された押沢の残水を利用して古くから開発が進んでいたと考えられます。その後、江戸時代には、農具川からの取水により流量の増加を図り、自然堤防に守ら

れた安全な耕地の拡大を図ると共に、それまで神明沢から取水していた池田地籍の古い水路への増水も可能となり、こうした経過から部分的には「古堰」であったにもかかわらず、新たに整備された流路を含め、全体を「新堰」と呼ぶようになったものと思われれます。

曾根原地籍の段丘法面を流下し、宮本付近から微妙な勾配で段丘上へと導かれ、神明沢を箱樋で横断して山之寺から池田町方面に向かっており、段丘上からの崩落や堰土手の崩壊が起きやすい構造のため、受益集落八力村は組合を作り、毎年八十八夜には協力して実地見分を行い、共同で維持管理してきました。

池田町川と田川堰

田川堰は、押沢下流で池田町川から分支し、主として流路から東側の曾根原から宮本の耕地70ha余を灌がいし、再び町川に合流しています。古くは閩田地籍で高瀬川に合流する直前の農具川から取水していましたが、広津発電所の建設に伴い、昭和14(1939)年に昭和電工導水路の閩田分水で池田町川と合口取水となり、町川から分水する構造になりました。

農具川から取水していた当時も池田町川の取水口と隣接しており、高瀬川が氾濫すると、取水口の確保を巡って両用水間でたびたび争いがありました。

た。寛政7(1795)年には、田川堰を上流とし、町川はその川下で取水することで和解決しています。

田川堰は、高瀬川沿岸では一段高い自然堤防にそって北から南に流下しており、湧水を利用した段丘上の用水の残水は、多くが合流する仕組みになっていました。また、利用している水田も多くは自然堤防に守られた流路東側の古田地帯であり、広大な面積を灌がする池田町川と対等の権限も有していました。このことは、元来は、高瀬川から自然流出していた支流を自然堤防にそって意図的に整備したもので、古くから段丘下の開発に大きな役割を果たしてきたことをうかがえます。

(文責 荒井今朝一)



写真：等高線に沿って造られた社新堰(曾根原)

第22回ふれあいイベント 「土・人・水」開催のお知らせ

イベントを通して地域用水を守ることや、ふれあい大切さを伝える為に、毎年、地域用水対策協議会と大町市土地改良区が合同で開催してきたふれあ

いイベント「土・人・水」を令和4年8月20日8時より大町市平猫鼻の越荒沢堰親水公園で開催いたします。

ここ2年は新型コロナウイルス蔓延防止のため開催を見送ってきた当イベントですが、本年度は、感染症対策を徹底したうえで、行うこととなりました。当日は、親水公園の整備を行い、作業終了後はお楽しみメニューとして公園内のせせらぎ水路で魚のつかみ取りを企画しております。開催にむけて、イベントをより一層よいものに、そしてたくさんの人に来場していただける様に準備してまいりますので、ご家族そろってご参加ください。参加費は無料です。詳しくは市役所入口のチラシ、又はホームページ「水土里ネットおまち」を検索してご覧ください。たくさんのご来場をお待ちしております。

お問い合わせ

地域用水対策協議会事務局
(0261) 2215542



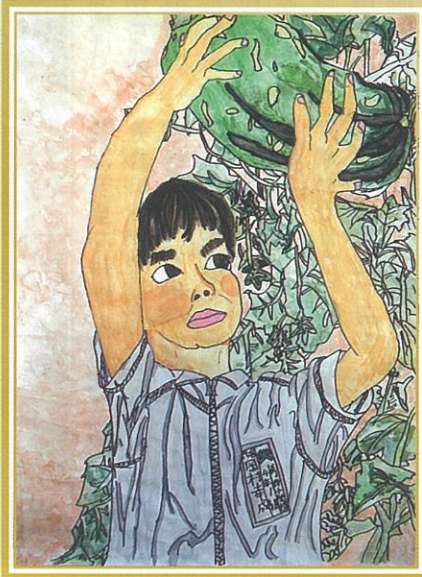
写真：R31のイベントの様子

水土里ネットおおまち地域用水対策協議会主催

第19回「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展

今回で第19回目を迎える子供絵画展ですが、今回は、西小4年生がヘチマ生育を水彩画で表現、応募してくれました。どの作品も画面いっぱいにダイナミックに描かれていて、立派に成長したヘチマを手にした充実感や喜びが伝わってくる素晴らしい作品でした。

会長賞



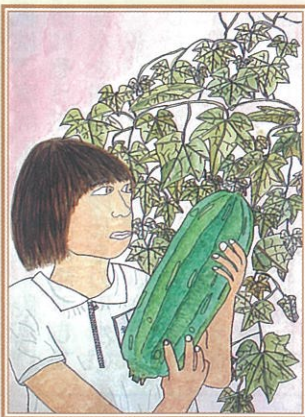
「大きくなったヘチマと成長したぼく」
岡村 幸成

理事長賞

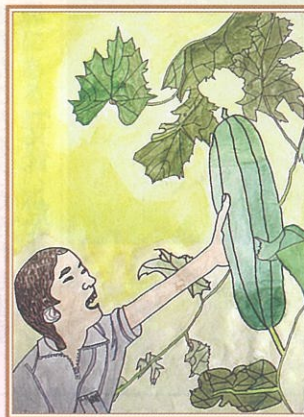


「おっきなヘチマと大きくなったわたし」
松沢 華

努力賞



「大きく育ったわたしとヘチマ」
傘木 柚衣



「ヘチマをとったぼー」
御筆 蒼介



「きれいで太いヘチマと大きくなったぼく」
高橋 琉晟



「美しすぎるヘチマとわたし」
江津 胡音



ホームページもあります。
水土里ネットおおまちで検索
<http://www.midorinet-omachi.jp>

